
ヴァンパイア・メイ・クライ（ブラムス×シルメリア、ルーファス×アリーシャ）

流瑠子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヴァンパイア・メイ・クライ（ブラムス×シルメリア、ルーフアス×アリーシャ）

【Nコード】

N9870C

【作者名】

流瑠子

【あらすじ】

これも2ちゃんでヒントを得たファンフィクション

「全てを忘れて、私に身を任せるがいい」

「ブラムス…ッ！」

あの日を境に、どれぐらいの時が経過しただろう。

シルメリアは、ブラムスに身体の変化を告げた。

アーリイ、レナス、シルメリア。

ノルン三姉妹とも、戦乙女ヴァルキリーとも呼ばれる、

人間の記憶と神の記憶の狭間を揺れる三女神。

中でも蒼穹の鎧をまとう金髪の三女、シルメリア・ヴァルキュリアは、

不死者王ブラムスと共に生きる事を望んだ。

「信じられぬ事だが、シルメリアよ。女神の中に、不死者の命が息づくとはな…」

全く、数奇な運命と言うしかないな」

ブラムスは誇らしげに、傍らの女神を引き寄せる。

「命の神秘性は、解明されつくしているように見えながら、未だに未知数なのだな」

シルメリアはブラムスの首に両手で抱き着き、不安そうにブラムスに問う。

「私は、どうしたらいい？」

「ん？」

「こんなに嬉しいのに…もしも、想像を超えた存在が生まれたら…取り返しがつかないと考えてしまう…」

ブラムスは抱き着いてくるシルメリアをそつと離すと、正面から見据えた。

「確かに過去、女神と不死者が結ばれ、子を成した話しは聞いていない。

しかしそれは問題ではないはずだ」

「ブラムス…」

ブラムスはシルメリアを自らの膝に乗せると、女神の体をあやすように揺すり、囁いた。

「…面白い。我が子がどんな成長を遂げるか、見届けさせてもらおうでしょう」

「はい」

ブラムスは縋り付くシルメリアをより強く抱きしめようとして…

男は、ベッドにいた。

彼は朝の光が入り始めた部屋に、妻と赤ん坊の三人でいた。

自分と妻に挟まれて、安らかに眠っている赤ん坊は、

金髪に白い肌、緑の目をした、母親似の美しい女の子だった。

「名をどうする？」

生まれた子を抱くなり父親は聞いた。

「もう決まっているでしょう」

妻はそつと呟いた。

「アリーシャ…」

それは、王室都市ディパンの賢王バルバロッサの娘、

失われたディパンの王女の名前だった。

アリーシャは平和なコリアンドル村で両親の愛情に包まれ、健やかに成長した。

その頃、ミッドガルドの主神となったルーファスは、

先の戦いで転生した仲間達の様子を見に行かせてくれと女神フレイに懇願し、

数年がかりでようやく数分のみなら、と承諾を得たのだった。

彼は下界に降りるにあたり、真っ先にコリアンドル村へと降り立った。

そこは、彼が焦がれてやまない娘が転生した場所だ。

しばらく道を歩くと二人の少年が走ってきた。

最後に、フードを被った少女。

目の前で転んだ少女が立つのを助けてやり、何気なくその少女の顔

を見て、

ルーファスはこの少女こそが探し求めていた娘の転生だ、と理解した。

しかし、それと同時に少女が前世の記憶を喪失しているのも分かり、ルーファスは自分と少女の人生が変わったのを感じた。

少女を微笑んで見送り、ルーファスは自らの左手の薬指にはめた、思い出の指輪に口付け、その場から姿を消した。

かつて共に戦った仲間で、今では四宝の一つ、

ドラゴンオーブの守護者となっている重剣士アリユーゼの元にルーファスがやって来て、

「コリアンドル村にアリーシャがいたよ、無事に転生していた」と知らせに来たのは転生したアリーシャと出会った直後だった。

「転生に異常が無ければ、よかったな」

アリユーゼは言って、ふと一つの名を思い出した。ルーファスと同じく共に戦った、

不死者を統べる不死者王。

「ブラムスが死んだ後でどうなったかだった？」

笑いを噛み殺したルーファスから、ブラムスがどうなったかを聞いて、

アリユーゼは盛大に驚いた。

「あいつ、あいつらが転生したアリーシャの両親！？マジか!？」

ブラムスは運命を司る三女神の三女、シルメリアの転生と共にいる…

彼はやっと、帰るべき場所、いるべき場所を見つけたのだ。

ルーファスの話しじゃ、幸せに暮らしているだろう。

「…確かに、理屈にやかなってる……か」

「ルーファス」

女神フレイの凜とした声が間近で聞こえて、

「時間制限を守らず、ヴァルハラを不在にしていた理由を聞かせなさい」

振り向くと、フレイがふふつと不敵に笑んだ。

（げっどうすりゃいい！）

ルーファスはうなだれた。

「悲しみを抱いて、いつまでも過去を引きずっていては、先に進めないわ。」

さあ、主神として世界の乱れを見過ごさずに、世界の乱れは我が罪と置き換えなさい！」

これに対し、ルーファスは相変わらずだな、

と大笑いするアリユーゼを横目に、小さくなって頷くしかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9870c/>

ヴァンパイア・メイ・クライ（ブルムス×シルメリア、ルーファス×アリーシ

2010年10月15日22時49分発行